

令和6年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月18日実施)	総合評価（3月31日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	自立と社会参加をめざして、キャリア教育の推進と学習内容の生活への般化という視点を持ち、教育内容に一貫性や継続性を持たせながら、生徒が主体的に取り組める授業作りを行う。	生徒一人ひとりの実態や課題、教育的ニーズを的確に捉え、生徒が主体的に学習できる、わかりやすい授業づくりに向けて組織的・継続的にカリキュラムマネジメントを推進していく。	①学習指導要領と学校目標に基づいたシラバスを作成するとともに、系統性や横断的学習を意識した年間授業計画の見直し、作成を行う。 ②生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた教材教具の工夫や一人1台タブレット端末などのICT機器の活用を進め、視覚的にわかりやすく生徒が主体的に取り組む授業づくりを行う。	①各教科の内容を検討し、系統性、継続性を意識したシラバスや年間授業計画の見直し、作成をすることができたか。 ②生徒の主体的な学習や個のニーズに応じた課題にタブレット端末を活用し、視覚的にわかりやすい授業を展開することができたか。	①学習指導要領の内容を反映しているか、内容の重複がないか等、検討を重ねながら整理を行い、部門ごとに書式を見直すことができた。 ②電子黒板を使用し、視覚的に分かりやすい授業を実施することができた。タブレット端末を活用することで、生徒が興味・関心を持って学習に取り組むことができた。	①各教科の単元実施時期を整理し、系統性のある授業、他教科と関連した横断的な学習につなげる。年間指導計画の年度末作成を試行し、生徒の実態に即した指導を図る。 ②タブレット端末や電子黒板について、引き続き学校全体で研修や学習会を実施し、知識や技術の向上に努める。	《学校評価アンケート》 ・楽しく学校に通っているか。思う・ほぼそう思う92.6% ・学習内容は適切でわかりやすいか。思う・ほぼそう思う88.3% ・一貫性のある教育を行っているか。思う・ほぼそう思う92.6% 《学校運営協議会》 ・生徒の変容が書かれていて良い。 ・校内での研修は報告の機会も大切である。 ・ICTに関する研修は教員による得手・不得手の要因や研修方法に工夫しながら行くと良い。 ・ICT機器の活用について、進路先とも共有できると良い。	・シラバスや年間授業計画について、学習指導要領の内容を反映しているか、他の授業と重複がないか等、内容の整理と書式の見直しを行った。内容の検討については、まだ進んでいない授業もあるため、引き続き取り組みが必要。次年度につなげていく仕組み作りも検討する必要がある。 ・タブレット端末や電子黒板を活用し、生徒の興味・関心を引き出している。教員の知識や技術の向上、教材の共有化などが課題である。	・シラバス、年間授業計画について、今年度に取り組みしていない授業について、引き続き検討する。年間授業計画の作成時期についても検討し、生徒の実態に即した指導を図る。系統性、他教科との関連した横断的な学習指導を進めていく。 ・タブレット端末や電子黒板について引き続き研修や学習会を実施していく。事例検討や個の実態に応じた活用方法を考えていく。授業実践例や教材の共有化を図っていく。
2	生徒指導・ 支援	生徒の実態や課題等を見立てる力（アセスメント力）や問題を解決する力を向上させ、チームとして組織的に生徒理解や生徒指導・支援にあたれるようにする。	専門職や他機関と連携して生徒の実態や課題を的確に捉えた個別教育計画を作成し、組織的・継続的な支援・指導の充実を図る。	①専門職や他機関と連携して生徒の実態や課題を捉えた個別教育計画を作成し、教員間の共通理解の中で適切な生徒支援を行う。 ②ケース会や支援会議で生徒の実態や課題、指導方法等を整理、共有し、組織的な支援・指導の充実を図る。	①生徒の実態や課題を的確に捉えた個別教育計画の作成、適切な支援・指導を行うことができたか。 ②充実したケース会や支援会議を行い、組織的に生徒支援・指導を行うことができたか。	①専門職を交えたケース会の実施、NISEとの意見交換を行い、指導・助言を個別教育計画の作成や具体的な支援方法の確認につなげることができた。 ②学年単位でケース会や支援会議を行うことで、具体的に実践につながる支援などが共有でき、迅速に指導・支援に活かすことができた。	①専門職に相談できる機会をより多く設定し、指導に反映させていく。授業者で個別教育計画の内容を共有し、支援・指導、評価につなげていく。NISEとの連携を引き続き行っていく。 ②担任や学年の困り感について部門や専門職と共に対応を考え、一貫した支援・指導につなげていく。支援・指導を共有する機会を増やすとともに、定期的にフィードバックが得られる仕組みを検討する必要がある。	《学校評価アンケート》 ・個別教育計画に基づいた教育活動か。思う・ほぼそう思う92.6% ・個別に相談しやすいか。思う・ほぼそう思う90.4% ・適切な生徒指導を行っているか。思う・ほぼそう思う87.2% 《学校運営協議会》 ・専門職による相談の機会を多くすることについては、努力目標にするとうすくいかないので、スケジュールリングして進めていくと良い。 ・ベテラン教員が持っている経験を若い教員に活かしていけると良い。	・専門職を交えたケース会の実施方法を各部門の実態に合わせて工夫した。教員間で共通理解を図り、生徒の実態に応じた支援・指導につなげることができた。NISEと連携し、指導・支援に活かすことができた。検討した内容の評価、見直しを行う仕組みづくりが必要。 ・ケース会や支援会議で具体的な実践につながる方法を共有でき、指導・支援に活かすことができた。部門全体で情報共有や指導・支援を行えるようにしたい。	・専門職に相談できる機会をより多く設定し、個別教育計画の作成、指導・支援に反映させていく。 ・個別教育計画の内容を授業者で共有するとともに、授業の振り返りや生徒の様子についてわかるものを作成、共有し、個別教育計画の評価や指導・支援につなげていく。 ・ケース会の内容を学部全体で共有し、他の生徒の指導、支援にも活かしていく。関係者から定期的なフィードバックが得られる仕組みづくりを検討する。
3	進路指導・ 支援	生徒一人ひとりの自己実現をめざし、自ら進路選択や進路決定できるよう、丁寧でわかりやすい指導・支援を行う。	進路指導・支援について専門性の向上を図り、生徒が主体的に進路選択や進路決定ができるよう、わかりやすく、系統的な指導・支援を行う。	①教員対象の進路研修会や事業所見学の設定、進路会議の活用を通して進路指導・支援力の向上を図る。	①進路研修会や進路会議の内容を進路指導・支援に活用することができたか。	①夏季休業中に教員対象の進路研修会を実施した。研修や事業所見学を行い、進路会議での意見交換が活発に行われるようになった。	①教員対象の進路研修会を複数回実施し、担任の指導力向上を図る。進路指導のポイントや注意事項をまとめたマニュアル作成について検討する。	《学校評価アンケート》 ・生徒に応じた進路指導が進められているか。思う・ほぼそう思う91.5% ・自立と社会参加のための力は伸びているか。思う・ほぼそう思う91.5% 《学校運営協議会》 ・進路ツールのレーダーチャートは興味深い。今後も進捗状況を報告してほしい。	・教員対象の研修会は充実した内容であった。進路会議での意見交換が活発に行われるようになった。進路担当と担任のより一層の連携が必要。	・担任のニーズに沿った進路研修会を複数回実施できるよう検討する。進路指導のポイントや注意事項をまとめたマニュアル作成を検討していく。 ・進路選択ツールの作成はスケジュールリングの検討や事業所への確認を効率的に進める工夫を行う。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月18日実施)	総合評価（ 3月31日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
				②進路選択ツールの改善や進路だよりなどの情報発信の内容を工夫し、わかりやすい進路指導・支援を行う。	②進路選択ツールを生徒が活用することができたか。ニーズを捉えた内容の進路だよりを年間5回以上発行できたか。	②進路選択ツールについてはまだ生徒が活用するに至っていない。進路だよりは年間7回発行した。	②進路選択ツールはスケジュールや作業手順の検討をする必要がある。教員・保護者のニーズを反映した進路だよりの内容を工夫していく。	・進路指導に関するマニュアルの作成は今後を見据えた視点で作成できると良い。	・進路だよりは内容を工夫し、年7回発行することができた。進路選択ツールについては計画的に進め、生徒の活用につなげたい。	・進路だよりについては今後も校内・保護者のニーズを反映できるよう内容を工夫していく。
4	地域等との協働	インクルーシブ教育推進の視点を持ちながら、近隣の学校や地域住民および関係機関との連携協力体制を強化し、地域に開かれた学校作りを推進する。	地域と連携して継続性のある交流を推進するために、地域資源の活用を進め、支援教育や本校の教育活動に対する地域の理解を深める。具体的な情報発信の方法や内容を工夫し、地域のセンター的機能の充実を図る。	①様々なイベントやボランティアなど、地域での活動を充実させるとともに、近隣学校児童・生徒と交流する機会を設ける。 ②学校行事、生徒会活動、学習の様子を学校だよりやホームページで発信し、保護者や地域の本校への理解を図る。	①近隣学校児童・生徒と関わりを持つことができたか。イベントや交流を通して、本校生徒や支援学校の取り組みについて理解促進を図ることができたか。 ②学校だよりの定期的な発行、ホームページでの情報発信を効果的に行い、保護者や地域の本校への理解を図ることができたか。	①夏季公開講座、環境整備事業、スポーツ交流、JRCの活動、三浦初声高校との連携等の地域交流を行った。 ②学校だより(年間5回発行)やHPで学校生活の様子を発信した。相談だよりは保護者の要望を反映させた内容を取扱い、好評を得た。	①夏季公開講座は本校保護者も関心を持てるような内容を考えていく。保護者や地域の方が関わりやすい形での交流や活動の場を検討していく。 ②情報発信の内容を充実させるとともに、より多くの方に発信できるよう、プリントやHP、回覧以外の方法も検討していく。	《学校評価アンケート》 ・巡回指導等、地域貢献ができているか。思う・ほぼそう思う74.5% ・保護者や地域に有用な情報提供ができているか。思う・ほぼそう思う95.7% 《学校運営協議会》 ・職業製品販売会は地域でも好評だった。今後も地域とのイベントを増やしてほしい。 ・学校行事やイベントについて、地域も期待しているので、スポーツ等でも交流を深め、開かれた学校づくりにつなげられると良い。	・夏季公開講座、環境整備事業、スポーツ交流、JRCの活動、三浦初声高校との連携等、様々な形で地域交流を行うことができた。夏季公開講座については、本校保護者も関心が持てるテーマを検討する必要がある。 ・学校だより、相談だよりは前年度より多く発行することができた。内容も保護者のニーズを捉え、充実した内容になるよう工夫した。より広く、効果的に情報発信していきたい。	・夏季公開講座は本校保護者をはじめ、より多くの人に関心を持てるよう、アンケートを活用してニーズを把握に努める。保護者や地域の方が関わりやすい形での交流や活動の場を検討していく。 ・情報発信の内容の充実を図り、より広く、多くの方に発信できるような方法を検討していく。
5	学校管理 学校運営	防災や防犯活動に組織的に取り組み、生徒にとって安全・安心な学校作りのための危機管理体制作りや防犯・防災教育を推進する。	実効性のある防災・防犯訓練に取り組むとともに、継続的な防災学習を行い、危機管理意識を育てる。組織的で効率的な業務改善を図り、学校運営の組織的な体制づくりを進める。	①防災教育の内容を検討し、各学年で継続的に指導していく。 ②様々な災害リスクに応じた実践的な訓練を行うだけでなく、実施後の振り返りについても検討し、生徒の危機管理意識を育てる。 ③各書式の見直し、統一化を行い、文書作成や確認業務の負担軽減につなげる。また、情報共有の方法の見直しや組織的な協力体制の構築を図る。	①継続的な防災教育の内容を検討し、実施できたか。 ②岩戸シェイクアウトや避難訓練の内容の工夫、実施後の振り返りについて検討し、実施することができたか。 ③書式の見直しと活用を進めることができたか。情報共有の工夫、グループや学年、部門を超えた協力体制をとることができたか。	①B部門1年では防災宿泊学習を行った。継続ではなかったが、学年授業の中で防災学習を行った。年間を通して避難訓練やシェイクアウト訓練を実施し、防災時の行動の定着につながった。 ②避難時に考えられる様々な状況を想定した訓練を行った。振り返りシートを作成し、事後学習で活用した。 ③個別教育計画の書式、記入の手引の検討を進め、次年度からの使用を目指している。授業や校務で使う電子データを共有できるようにサーバー内を整理した。学年や部門を超えた協力体制を整えることは難しかった。	①授業での防災教育と、定期的な訓練及び事前事後学習等を活用し、継続的に指導していく。 ②訓練後の反省、消防署からのアドバイスを受け、より実践的な訓練内容を検討していく。 ③縦割りの授業等、学年を超えた協力体制を取りやすい授業から体制づくりを進めていく。 書類については統一書式の使用を年度当初から徹底することで、ミスを防ぐ。働き方に合わせた役割分担を行い、円滑に業務を進めていく。	《学校評価アンケート》 ・安全な学校生活を送っているか。思う・ほぼそう思う96.8% ・医療的ケアを含め、健康管理は適切か。思う・ほぼそう思う94.7% ・登下校は安全か。思う・ほぼそう思う89.4% ・教職員からの連絡や説明、対応は適切か。思う・ほぼそう思う92.6% 《学校運営協議会》 ・災害時に避難所に行った後に自宅に帰ってしまうケースが増えているという。家庭での準備などを共有する取組も必要ではないか。 ・自力通学の生徒の登下校時にも対応できるような防災学習を行っていかれると良い。 ・防災は保護者にとっても課題と考えている。卒業後の防災についても考えていかなければならない。保護者が防災の取組に参加できる機会があると、考えることにつながっていくと思う。	・年間を通して避難訓練やシェイクアウト訓練を実施した。訓練の放送で身を守る行動がとれるようになり、防災時の行動の定着につなげることができた。継続的な指導を行うことが難しかった。 ・負傷者が出た想定や、車いすを2階から1階に降ろす状況など、様々な状況を設定し、訓練を行うことができた。作成した振り返りシートに訓練後に事後学習として取り組み、生徒の危機管理意識を育てるよう工夫した。訓練や事前事後学習が形骸化しないようにしたい。 ・個別教育計画、年間授業計画等の書式の見直しを行った。授業や校務で必要な電子データを共有しやすいよう、校内サーバー内のフォルダを整理した。 ・学年や部門を超えた協力体制を整えることは難しかった。	・防災教育を継続的、系統的に行えるよう、見直した年間授業計画を実践していく。定期的な訓練及び事前事後学習等を活用し、継続的に指導していく。 ・訓練後の反省、消防署からのアドバイスを受け、より実践的な訓練内容を検討していく。 ・生徒の登下校中、家庭にいる時の対応についての防災学習にも取り組んでいく。 ・年度当初から統一書式の使用を徹底し、ミスの防止の業務の効率化を図る。 ・働き方に合わせた役割分担を行い、円滑に業務を進めていく。 ・縦割りの授業等、学年を超えた協力体制を取りやすい授業から体制づくりを進めていく。

